（第三種郵便物認可　昭和十二年七月十日）

現業委員會の本質に就て

鐵道省現業調査課長　三富秀夫

一

現業委員會はどう云ふ働きをするものであるか、どう云ふ機能を營むものであるかと云ふ點から見た此の現業委員會の解釋、即ち現業委員會の機能論的解釋、第二段は現業委員會は如何なる目的を有つてゐるかと云ふ、目的と云ふ觀點からする所の現業委員會の本質の解釋、即ち現業委員會の目的論的解釋でありますが、斯くの如く二段に分けて現業委員會と云ふものを考へたい。

そこで第一の機能論的解釋に於ける現業委員會の本質は何かと、それは主として現業從事員の福利に關する問題について所謂下意を上達し、上意を下達し、上下の意思の疎隔或は離反と云ふ樣なことの通の機關であると云ふことになります。それが機能論的に見た所の現業委員會の本質であります。

然らば第二の目的論的解釋に於ける現業委員會はどう云ふことになるかと申しますと、それは即ち鐵道大家族主義を充實することを目的とするものであると云ふことになる。現業委員會は鐵道大家族主義を飽く迄も徹底し、充實して行かうとするものであると云ふことが出來るのであります。所が從來現業委員會の本質を論ずるものの大多數の傾向を見て居りますと、所謂機能論にのみ終始してゐる。或はその方面に主力を注いで目的論の方面に從たる考へしか持たなかつた。斯う云ふ弊があつたと思ふのであります。

然しながら現業委員會の本質として我々の重視すべきものは寧ろ目的論的方面であると思ふ。現業委員會が意思の疎通と云ふ働きを爲すものとしまして、その働きは一體何のために爲されるのか、唯一部の人々の利益のためのみにそう云ふ意思の疎通が爲されるのか或はその他の目的のためにそう云ふ働きが爲されるのであるか、此の點に關する考へ方はどうなつてゐるかと云ふことは非常に重要であると思ふのであります。その考へ方の相違するにつれて、意思の疎通といふ機能そのものは一つでも、その機能の効果、さう云ふ意思疎通といふ機能から生れ出て來る所の結果と云ふものは非常に變つて來る。從つてこの目的の立て方と云ふものは非常に重大であります。そこで現業委員會の本質を論ずるに當つても、目的論的解釋で行かねばならぬのであります。即ち現業委員會は鐵道大家族主義を、充實する目的を有つものであると云ふ點を徹底的に認識しなければならぬと思ふのであります。

二

然らば鐵道大家族主義とは一體どう云ふものであるか、私は之を次に申述べますれば鐵道大家族主義とは鐵道精神の重要なる一部を爲すものであります。鐵道精神とは鐵道の使命の自覺より出發する至誠奉公又は、獻身奉公の精神であります。鐵道旅制定の際の訓示に現はれたる云ひ方を以てすれば至誠奉公の精神、鐵道精神の眞の文字を以てすれば、獻身奉公の精神、それが鐵道精神の核心であります。その至誠奉公或は獻身奉公の精神の發露として最も重要なる部面を占むるものがこの鐵道大家族主義であるのであります。これが鐵道大家族主義と云ふもゝ形式的の意義であるのであります。然らば内容的に見たる鐵道大家族主義はどう云ふことになるかと申しますと、これを私は再び機能論と目的論の二つの方面に分けて考へて見たい。

機能論的解釋に於ける鐵道大家族主義と云ふものは然らばどう云ふものだと申しますと、國有鐵道の職員全體がたとひ幾十萬居らうとも、又如何なる系統に分れて居ようとも、一人殘らず、上下左右、相互に家族的な信頼と親しみとを以て相接し、そうして一種の倫理的な意味に於て團結協力する云ひ換へればお互ひの間を單なる勞務と給料との交換關係と云ふ樣な風に考へることなく、或は又單なる規則に依つて縛られた關係であると云ふ樣にも考へることなく、もつと深い、何か精神的な、心の底からの繋がりのある、而も血の通つた溫かみのある關係と考へて關結する。さう云ふ倫理的な意味を以てお互ひが確かりと團結協力することが即ち大家族主義の機能論的な内容であります。

次に目的論的解釋に於ける大家族主義とは何であるかと申しますと、即ち國鐵の業績の向上を國家に對する反逆分子を自家の事業部門から出さしめないために、その方の準備的研究を行ふことが必要であらねばならぬ。これが勞働者教化の最大眼目であるべきだが、今日の勞働管理上の常識は、著るしく經濟的であり、技術的であるが、政治的、政策的には重視されてゐない樣である。思想問題のことなら司法省や警保局に一任しておいて吾關せずと云つた事業家が多い。一般的に不熱心の傾向にあると云へる。我等がもつとその方に熱心される樣勸告しても、無産黨の代議者の樣に扱つて眞意を強いて曲解する人が多いのも困つたことである。全國の事業家中思想對策に關心を持ち熱心さを寄せられる人々が我等の經驗から推して百人を出でないとあつては、大日本の躍進産業道の主柱をコンソリデートする上からも、甚だ心細い次第ではないかと思ふ。

四

産業道の革新とは、各産業人が、自利心から離れて國家のエターナル・プロスペリティーのために大自覺心を持つと云ふ事柄を意味する。戰時事態に處してどこまでも排他的に利益を追ふ、即ち國が貧乏して也も個人が富むと云つた變則的な、産業道が横行し淵沙してゐる樣では、光輝ある國史の成果と忠勇義烈なる皇軍將士の前に、日本人として恥づべきである。産業人も公人としては國家産公の至念に炎え起たねばならぬし、私人としても自利心のみに耽るべきではない。特に事業主において然りである。

協調會の提唱に係る産業報國運動が、その内容を見ると相當大規模なスケールを持つてゐるだけに、統制々々で相當頭を叩かれてゐる方の資本家の間で、女々しい惡口を放つてゐるものもゐるし、ヂャーナリズムもあまり好意的に取扱つてゐない樣であるが、これを公平に見ると、何かの先入觀を以て恰かも協調會の擴大運動その、もゝ如く誤解してゐるのは笑止千萬な話である。當局から尻を叩かれないと思想對策などに關心を拂はない資本家の多い現狀では報國運動の使命から考へても、自覺心のない人達を集めて見ても産業道の建設途上に、却つて一の荷厄介になるものとも見られるのである。（完）

（第三種郵便物認可　昭和十二年七月十日）

産業革新と思想對策

關西勞働事情研究所　楠原祖一郎

一

協調會が主唱者となつて産業報國運動が呼びかけられ、各方面からの共鳴を得て、それが結成を見るに至つたことは、現下非常時局下における新産業道の建設を急務とする今日、その意義が特に深いものがある。我等の如きも目頃から皆の驥尾に付して、産業道が單に自由主義の土壌の上に起つて運營されてゐる樣では、一朝事ある場合畫だ心細い所以を論じつゝあるものにおいては、この産業報國運動の發達を見るに至つたことを非常に心強く且つ愉快に思ふものである。

二

今日我國の上に踝せられた重大使命の達成のためには、どうしても資本家は單なる資本家ではいけないと同樣に、勞働者も單に使はれてゐる賃銀勞働者と云つた感じでは不可なのである。お互にもつと人間的な自覺の上に起つて、心の目を開いた姿で産業道を最も高く評價し得る樣にならなければ百の議論も結局は理論のための理論に過ぎないのである。

今から十四五年も前に、我國に科學的社會主義と空想的社會主義が對立的に思想戰線の上に登場した。更ら にそれより四五年前、即ち歐洲大戰の終末期にはデモクラシーが我國思想界に登場し、當時の青二才であつた我等もそれに誰しく影響を受けたのであつた。それから六、七年間社會思想家列傳でも繙くが如く、英獨佛露やアメリカの色々の社會運動家や、社會思想家が目まぐるしく我等を眩惑したのである。

單に書室における貧すしい一學究の生活を送つてゐる過ぎなかつた我等に取つても、隨分と刺戟の強い時代であつたのである。そしてその結果資本家は鬼か高利貸の樣に評價され、多少ともその方の意識を持つのでないと、人間的に取扱はれないのであつた。階級意識とか、グラッセン・カンプとか云つた言葉が毎日各自の口から目に何十度となく飛出さないと虫が治まらぬ時代でもあつた。我等の周囲のインテリー連中も總同盟やその對立勢力に同化したが、それらの人達も何年か後にはその方面からも脱落し、不成功に終つてゐる人達も四、五人はゐるであらう。

かくて勞働運動は資本主義のよい意味での改善の推進力ではなくヨナリーのための破壞力として動いたゝめに、草分時代の特別高等警察事務は、全く勞働警察事一の妾を呈したのであつた。かふした狀態の下にあつては、勞資協調などゝ云ふことは非常に困難な仕事となり、對立尖鋭化する一方の大正十二、三年時代では、全くイデオロギーの上からも、協調主義と云ふ概念は喰はず嫌ひに放棄されてゐたのであつた。當時は協調會の大阪支所も開設早々のことでもあり、勞資双方の間に起つて初代の支所長であつた故藤澤移氏の如きも相當苦勞された樣子が目の前に彷彿として來るが、むしろ勞働者側に對して如何に接觸すべきかに苦勞された樣であつた。

三

當時において觀念的に取扱れてゐた産業道なる概念は、勞資が公正且互讓の精神によつて握手提携することであるとされてゐたが、先づそれも殆んど物になつた例がなかつた。資本家の方にも相當の腹のある人物もゐたが、勞働者側のリーダーシップが、何と云ふか一の英雄主義的にとても云ふべき考へ方が風靡してゐたゝめに「飢餓と牢獄」と云つた樣な相言葉が流行し、勞働組合運動即赤色無産草分運動のシノニムとして取扱れてゐたのであつた。

當時は資本家の方でも時代が若かつたゞけに、吾々が今熱心に取扱つてゐる思想對策についても、却々熱心に研究もしたし、大事業會社の如きは勞働爭議防止對策即思想對策と考へて之が調査研究にも執心したのであるが、それが今日の如き不熱心さが將來され樣とは吾々として豫想もしなかつた所である。新産業道とは、國家を生かすための産業道であらねばならぬ。國家を生かすことは、國民として生き得る道である。そのためには大いに勞務者の教化と云ふ問題を特高警察的の意味のみでもなく、國家に對する反逆分子を自家の事業部門から出さしめないために、その方の準備的研究を行ふことが必要であらねばならぬ。これが勞働者教化の最大眼目であるべきだが、今日の勞働管理上の常識は、著るしく經濟的であり、技術的であるが、政治的、政策的には重視されてゐない樣である。思想問題のことなら司法省や警保局に一任しておいて吾關せずと云つた事業家が多い。一般的に不熱心の傾向にあると云へる。我等がもつとその方に熱心される樣勸告しても、無産黨の代議者の樣に扱つて眞意を強いて曲解する人が多いのも困つたことである。全國の事業家中思想對策に關心を持ち熱心さを寄せられる人々が我等の經驗から推して百人を出でないとあつては、大日本の躍進産業道の主柱をコンソリデートする上からも、甚だ心細い次第ではないかと思ふ。

産業道の革新とは、各産業人が、自利心から離れて國家のエターナル・プロスペリティーのために大自覺心を持つと云ふ事柄を意味する。戰時事態に處してどこまでも排他的に利益を追ふ、即ち國が貧乏して也も個人が富むと云つた變則的な、産業道が横行し淵沙してゐる樣では、光輝ある國史の成果と忠勇義烈なる皇軍將士の前に、日本人として恥づべきである。産業人も公人としては國家産公の至念に炎え起たねばならぬし、私人としても自利心のみに耽るべきではない。特に事業主において然りである。

協調會の提唱に係る産業報國運動が、その内容を見ると相當大規模なスケールを持つてゐるだけに、統制々々で相當頭を叩かれてゐる方の資本家の間で、女々しい惡口を放つてゐるものもゐるし、ヂャーナリズムもあまり好意的に取扱つてゐない樣であるが、これを公平に見ると、何かの先入觀を以て恰かも協調會の擴大運動その、もゝ如く誤解してゐるのは笑止千萬な話である。當局から尻を叩かれないと思想對策などに關心を拂はない資本家の多い現狀では報國運動の使命から考へても、自覺心のない人達を集めて見ても産業道の建設途上に、却つて一の荷厄介になるものとも見られるのである。（完）

産業報國聯盟懇談會

産業報國聯盟にあつては九月九日正午丸ノ内會館に時局對策委員を招待し河原田理事長の挨拶に續いで長岡理事より産業報國聯盟設立の經過報告を爲したる後種々懇談を遂げた。當日の出席者芳名は左の如くである。

出席者芳名（順序不同）

永野若松氏　町田正人氏
山田榮一氏　松岡駒吉氏
桑田良雄氏　中田謙二氏
西山仁三郎氏　野村卓氏
高山久藏氏　吉阪俊藏氏
伊藤保大郎氏　郡嶋義等氏
深川正夫氏　清水壽一氏
河原田稼吉　三輪壽壮
松本勇平　外事務局員　長岡保太郎